

# 保護者のとらえた幼児の遊び・文化

—15年前の調査との比較を通して—

大 桃 伸 一

## I 問題と目的

「体格はよいけど体力がない」「創造力が枯渇している」「人の痛みがわからない」といった子どもをめぐる問題が指摘され、家庭内暴力、学校内暴力、陰湿ないじめ等が続発していた1987年に、新潟市内の幼稚園・保育園の5歳児クラス（年長組）に通う子どもをもつ両親に「幼児の家庭での生活や遊びの実態及びそれにかかわる両親の意識調査」を行った。その結果、「外でよく遊ぶ子どもは、家の中でよく遊ぶ子に比べ、豊かな経験をもち、道具などの使用能力に長じ、自立も進んでいる」等といった注目すべき幼児の姿が明らかになった。

1987年の調査とほぼ同じ内容の『幼児期の生活実態調査』を、15年後の2002年に行った。15年という時間は、5歳の幼児が20歳の成人に達する年月である。この間、わが国は「失われた10年」などとも言われたが、少子化・都市化・情報化は一段と進み、家庭や子どもをめぐる環境は大きく変化した。そうしたなかで、児童虐待が激増し、青少年のおこす凶悪犯罪が大きな社会問題となっていた。青少年の問題行動は幼児期の育ちと深く関係しているという指摘は、かなり以前からなされてきた。

15年前と比べて、幼児の家庭での生活や遊びはどのように変わったのか、そして、それが幼児の発達や経験にどのような影響を及ぼしているのか。

本稿は、このような問題意識のもとに、『幼児期の生活実態調査』のうち、幼児の遊び・文化に関する調査項目を取り上げ、幼児の遊び・文化の実態及び15年の変化の様相を明らかにすることを目的とする。

## II 方法

**調査対象：**新潟市内の幼稚園・保育園の5歳児クラスに在籍する子どもをもつ保護者

**調査方法：**新潟市に所在する幼稚園及び保育園から24園634家庭を抽出（幼稚園11園 319家庭、保育園13園 315家庭）、調査票を園を通じて配布・回収を行った。回収数550、回収率86.8%であった。

**調査時期：**2002年10月11日～10月24日

なお、15年前の調査は、次の通りである。

**調査対象：**新潟市内の幼稚園・保育園の5歳児クラスに在籍する子どもをもつ両親

**調査方法：**新潟市に所在する幼稚園及び保育園から618組の両親を抽出（幼稚園310、保育園308）、調査票を園を通じて配布・回収。回収数557、回収率90.1%、有効票本数523。

**調査時期：**1987年9月28日～10月5日

### Ⅲ 結果と考察

#### 1 遊び

##### (1) 遊び場所

①「近くに子どもが安心して遊べる場所がありますか」という質問に対する回答は、図1-1のとおりである。これを15年前の調査結果と比較すると、近くに子どもが安心して遊べる場所があると答えた人は、15年前の83.2%から77.3%に減少した。

②「ある」と答えた人に対して、「それはどんな場所ですか」と尋ねた結果は、表1-1のとおりである。78.4%の人が公園をあげ、新潟市の場合、5・6歳児の遊び場において公園の果たす役割がきわめて大きいことがわかる。次に、空き地(18.1%)、道路(11.1%)、校庭(9.9%)と続くが、野原、砂浜などの自然の遊び場は少ない。15年前と比べて、空き地や神社・寺の減少が大きい。また、遊び場全体において公園の占める割合は、15年前に比べて10.4ポイント高くなっている。

表1-1 安心して遊べる場所はどこか

|      | 2002  | 1987  |
|------|-------|-------|
| 公園   | 78.4% | 77.7% |
| 空き地  | 18.1% | 37.2% |
| 道路   | 11.1% | 12.2% |
| 校庭   | 9.9%  | 12.9% |
| 神社・寺 | 7.3%  | 15.9% |
| 田畑   | 3.8%  | 3.5%  |
| 野原   | 1.4%  | 3.2%  |
| 砂浜   | 1.4%  | 1.6%  |
| その他  | 8.9%  | 6.7%  |

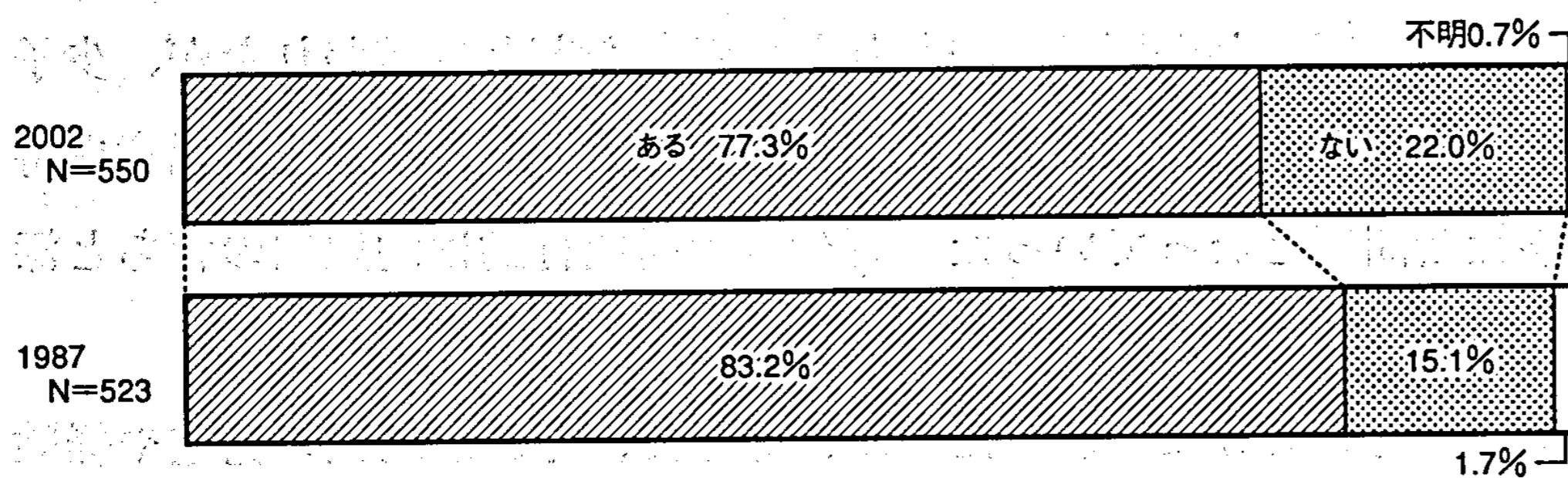


図1-1 安心して遊べる場所があるか

##### (2) 日常生活における遊び

5・6歳児の日常生活における遊びの実態を、幼稚園・保育園から帰ってきてから夕食までの過ごし方を中心にみる。

①「夕ごはんまではどのように過ごしていますか」という質問に対する回答は、図1-2のとおりである。これを15年前の調査結果と比較すると、15年間で、「外でよく遊ぶ」子が68.5%から32.4%に激減し、かわりに「家の中でよく遊ぶ」子が28.9%から52.4%に増加している。「テレビをみていることが多い」子も、15年前の1.3%から11.3%に増加している。

②夕ごはんまで「外でよく遊ぶ」と「家の中でよく遊ぶ」と答えた人に対して、「誰と遊んでいますか」と尋ねた結果が、表1-2である。15年前の調査結果と比較すると、同年齢の友達とは81.5%から46.9%に、異年齢の友達とは42.6%から28.3%に激減している。かわりに「一人で遊ぶ」が28.5%から39.0%に増えている。新潟市の5・6歳児の場合、夕食までの過ごし方が15年間ですっかり変わってしまったのである。

③降園後夕食までの過ごし方を幼稚園と保育園に分けてみると、図1-3のようになる。幼稚園は、家の中でよく遊ぶ子の割合が全体より高い。これに対して、保育園は家の中でよく遊ぶ子の割合が低く、かわりにテレビをみていることが多い子の割合が高い。また、遊び相手についてみると、表1-3のようになる。



幼稚園、保育園ともきょうだい第1位であるが、幼稚園は保育園よりも同年齢の友達や母親と遊ぶ割合が高い。これに対して、保育園は一人で遊ぶ子の割合が多い。

表1-2 夕食まで誰と遊んでいるか

|        | 2002  | 1987  |
|--------|-------|-------|
| 一人で遊ぶ  | 39.0% | 28.5% |
| 同年齢の友達 | 46.9% | 81.5% |
| 異年齢の友達 | 28.3% | 42.6% |
| きょうだい  | 69.0% | 67.8% |
| 父      | 1.5%  | 3.1%  |
| 母      | 15.2% | 13.6% |
| 祖父母    | 8.8%  | 6.1%  |
| その他    | 1.9%  | 2.2%  |

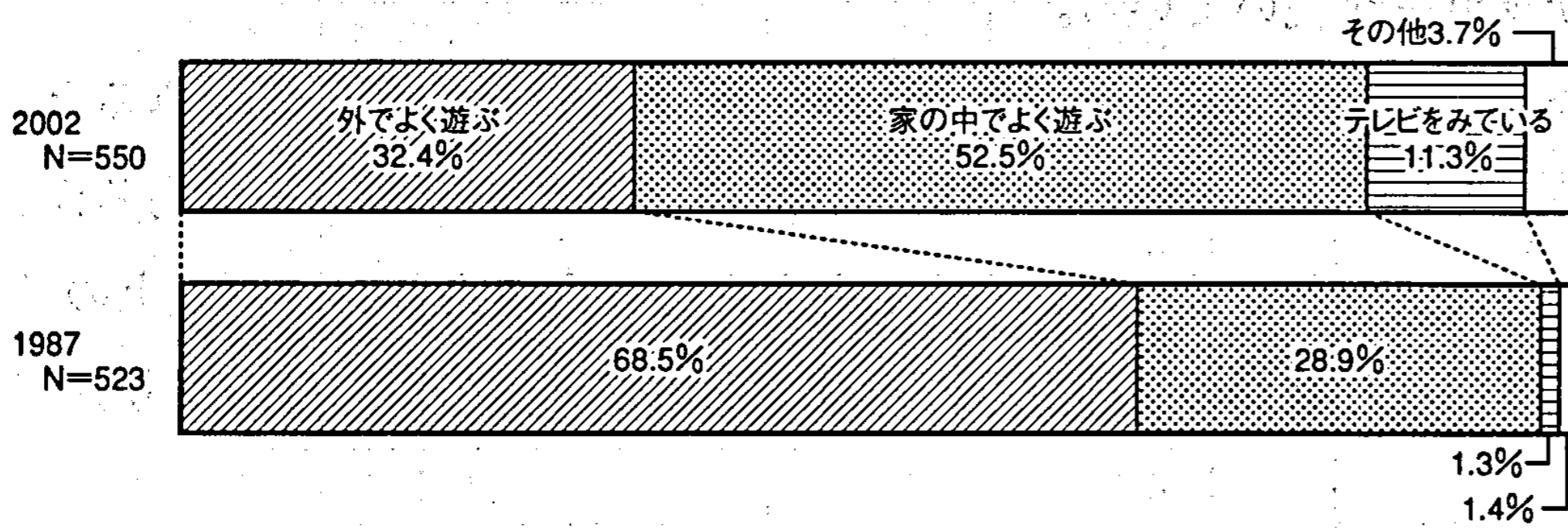


図1-2 夕食までの過ごし方

表1-3 幼保別夕食までの遊び相手(2002)

|        | 幼稚園   | 保育園   |
|--------|-------|-------|
| 一人で遊ぶ  | 39.0% | 29.5% |
| 同年齢の友達 | 53.3% | 28.7% |
| 異年齢の友達 | 27.6% | 22.1% |
| きょうだい  | 65.1% | 56.2% |
| 父      | 0.7%  | 1.9%  |
| 母      | 16.9% | 9.6%  |
| 祖父母    | 8.5%  | 7.0%  |
| その他    | 1.8%  | 1.6%  |

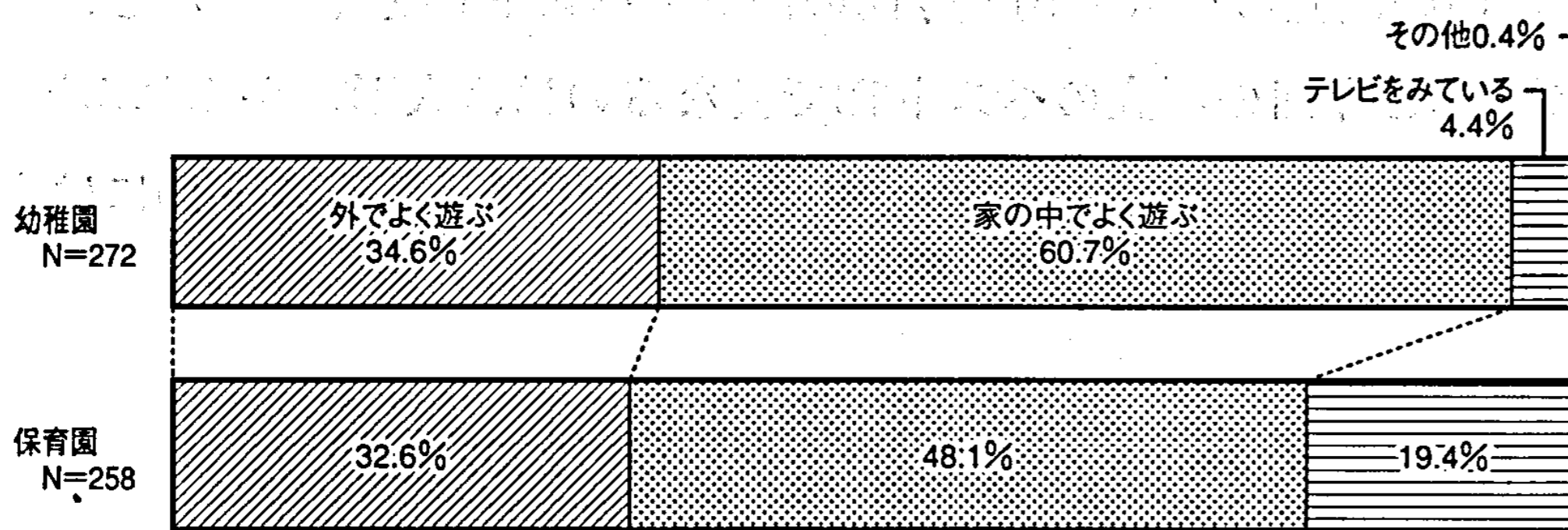


図1-3 幼保別夕食までの過ごし方 (2002)

(3) 夕食後の過ごし方

①「夕ごはんの後はどのように過ごしていますか」という質問に対する回答は、図1-4のとおりである。「よく遊ぶ」が48.9%、「テレビをみていることが多い」が43.3%である。これを15年前の調査結果と比較すると、夕食後よく遊ぶ子が増え、テレビをみていることが多い子が減っていることがわかる。

②夕食後の過ごし方で、「よく遊ぶ」と答えた人に対して、「誰と遊んでいますか」と尋ねた結果は、表1-4のようになる。夕食後はきょうだいと遊んでいる子が圧倒的に多い。15年前と比べると、父親と遊ぶ子が減少し、母親と遊ぶ子や一人で遊ぶ子が増加している。

表1-4 夕食後誰と遊んでいるか

|       | 2002  | 1987  |
|-------|-------|-------|
| 一人で遊ぶ | 38.7% | 36.9% |
| きょうだい | 84.8% | 82.1% |
| 父     | 26.4% | 34.4% |
| 母     | 17.5% | 15.9% |
| 祖父母   | 8.9%  | 9.0%  |
| その他   | 0.7%  | 0.1%  |

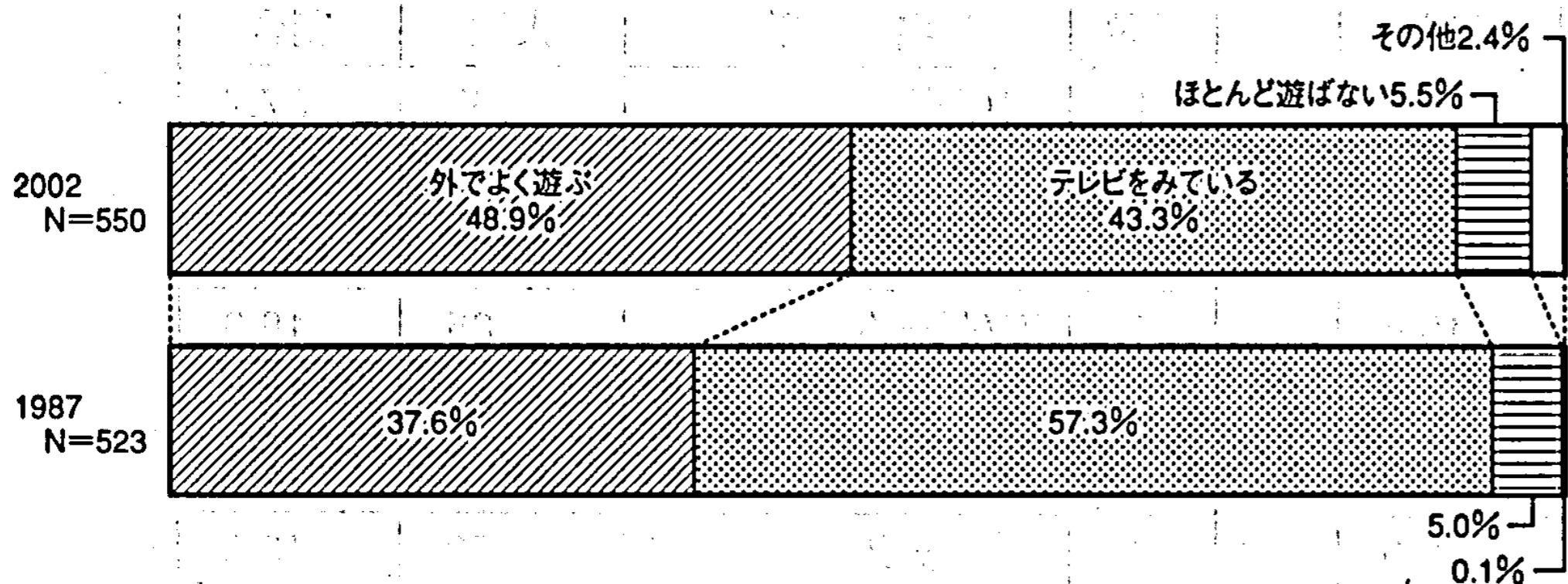


図1-4 夕食後の過ごし方

(4) 好きな遊び

①子どもの好きな遊び（5つ以内）を自由にあげてもらったが、そのうち10位までを示したのが表1-5である。ままごと、おえかき、自転車は全体の25%以上があげており、5・6歳児に特に人気のある遊びである。これにTVゲーム、ベイブレード、サッカーが続いている。

②5・6歳児になると、性による好きな遊びの違いもみられる。男女別に好きな遊びを10位までみると、表1-6、表1-7のようになる。男の子に人気があるのはベイブレード、TVゲーム、サッカーであるが、女の子はあまりあげていない。女の子に特に人気のある遊びは、ままごととおえかきであり、4割以上の子があげている。なわとび、折り紙、ごっこ遊びなども女の子の好きな遊びであるが、男の子にはあまり人気がない。

③表1-8は、15年前の調査であげてもらった子どもの好きな遊びベスト10である。15年前の調査で5・6歳児に特に人気のある遊びであった自転車、ままごとは、今回の調査で少しあげた人が減ったが、依然として5・6歳児に人気のある遊びである。前回の調査のベスト10と今回の調査のベスト10を比較すると、8つまでが共通している。前回の調査のベスト10と今回の調査のベスト10で異なるのは、人形、かくれんぼ、なわとびの3つとベイブレード、サッカーの2つであるが、ベイブレードを除いたものは、ベスト10には入らなかったものの多くの人の子どもの好きな遊びとしてあげていた。

表1-5 好きな遊び (2002-全体)

| 順位 | 名前     | 人数  | 割合   |
|----|--------|-----|------|
| 1  | ままごと   | 159 | 29.0 |
| 2  | おえかき   | 149 | 27.1 |
| 3  | 自転車    | 137 | 25.0 |
| 4  | TVゲーム  | 97  | 17.7 |
| 5  | ベイブレード | 85  | 15.5 |
| 6  | サッカー   | 84  | 15.3 |
| 7  | ブロック   | 74  | 13.5 |
| 8  | 鬼ごっこ   | 65  | 11.8 |
| 9  | 砂遊び    | 55  | 10.0 |
| 10 | 虫とり    | 48  | 8.7  |

表1-6 好きな遊び (2002-男)

| 順位 | 名前     | 人数 | 割合   |
|----|--------|----|------|
| 1  | ベイブレード | 81 | 29.3 |
| 2  | TVゲーム  | 76 | 27.5 |
| 2  | サッカー   | 76 | 27.5 |
| 4  | 自転車    | 59 | 21.4 |
| 5  | ブロック   | 58 | 21.0 |
| 6  | 虫とり    | 37 | 13.4 |
| 7  | 鬼ごっこ   | 34 | 12.3 |
| 8  | 戦いごっこ  | 27 | 9.8  |
| 9  | おえかき   | 25 | 9.1  |
| 10 | 砂遊び    | 22 | 8.0  |

表1-7 好きな遊び (2002-女)

| 順位 | 名前    | 人数  | 割合   |
|----|-------|-----|------|
| 1  | ままごと  | 125 | 45.8 |
| 2  | おえかき  | 120 | 44.0 |
| 3  | 自転車   | 75  | 27.5 |
| 4  | なわとび  | 42  | 15.4 |
| 5  | 折り紙   | 36  | 13.2 |
| 5  | ごっこ遊び | 36  | 13.2 |
| 7  | ブランコ  | 34  | 12.5 |
| 8  | 砂遊び   | 32  | 11.7 |
| 9  | 鬼ごっこ  | 31  | 11.4 |
| 10 | かくれんぼ | 28  | 10.3 |

表1-8 好きな遊び (1987-全体)

| 順位 | 名前    | 人数  | 割合   |
|----|-------|-----|------|
| 1  | 自転車   | 197 | 37.7 |
| 2  | ままごと  | 181 | 34.6 |
| 3  | 砂遊び   | 121 | 23.1 |
| 4  | TVゲーム | 85  | 16.3 |
| 5  | 鬼ごっこ  | 82  | 15.7 |
| 6  | おえかき  | 76  | 14.5 |
| 7  | ブロック  | 72  | 13.8 |
| 8  | 虫とり   | 63  | 12.0 |
| 9  | 人形    | 57  | 10.9 |
| 10 | かくれんぼ | 56  | 10.7 |
| 10 | なわとび  | 56  | 10.7 |

表1-9 好きな遊び(1987-男)

| 順位 | 名前    | 人数  | 割合   |
|----|-------|-----|------|
| 1  | 自転車   | 112 | 41.9 |
| 2  | TVゲーム | 81  | 30.3 |
| 3  | 砂遊び   | 72  | 27.0 |
| 4  | ブロック  | 60  | 22.5 |
| 5  | サッカー  | 46  | 17.2 |
| 6  | 野球    | 45  | 16.9 |
| 7  | 虫とり   | 44  | 16.5 |
| 8  | 鬼ごっこ  | 42  | 15.7 |
| 9  | かくれんぼ | 31  | 11.6 |
| 10 | ブランコ  | 20  | 7.5  |

表1-10 好きな遊び(1987-女)

| 順位 | 名前   | 人数  | 割合   |
|----|------|-----|------|
| 1  | ままごと | 162 | 63.8 |
| 2  | 自転車  | 85  | 33.5 |
| 3  | おえかき | 58  | 22.8 |
| 4  | 人形   | 52  | 20.5 |
| 5  | 砂遊び  | 49  | 19.3 |
| 6  | なわとび | 48  | 18.9 |
| 7  | 鬼ごっこ | 40  | 15.7 |
| 8  | 折り紙  | 35  | 13.8 |
| 9  | ぬり紙  | 31  | 12.2 |
| 10 | 着せかえ | 28  | 11.0 |

表1-9、表1-10は、15年前の調査であげてもらった男女別の好きな遊びベスト10である。これを今回の調査の男女別ベスト10と比較すると、男女とも10のうち7までが共通している。男子のベイブレードを除けば、15年間で好きな遊びは、それほど変化していないことが認められる。

## 2 テレビ

### (1) 視聴時間

①新潟市の5・6歳児が1日にテレビをみる時間は、図2-1の示すとおりである。30分未満はほとんどみないに入れた。15年前の調査ではほぼ半数が2時間くらいと答えていたが、今回の調査ではかなり分散している。生活パターンの多様化とも関係していると考えられる。「ほとんどみない」を0、「1時間くらい」を1、「2時間くらい」を2、「3時間くらい」を3、「4時間以上」を4とした平均値は、前回の調査が2.10、今回の調査が2.21である。新潟市の5・6歳児の場合、15年前よりもテレビをみる時間が長くなっているといえる。

②テレビの視聴時間を、他の調査項目とクロスさせて関連をみると、次のようになる。

㊦家族形態別にみると、図2-2のようになる。「ほとんどみない」を0、「1時間くらい」を1、「2時間くらい」を2、「3時間くらい」を3、「4時間以上」を4とした平均値は、三世代以上家族が2.25、核家族が2.20である。15年前の調査同様、三世代以上家族の子どもの方が核家族の子どもよりも、テレビをよくみている。

㊧きょうだいの有無についてみると、きょうだいのいる子の平均値が2.19、きょうだいのいない子の平均値が2.29である。15年前の調査では、きょうだいの有無による視聴時間のはっきりとした違いは認められなかったが、今回の調査では、きょうだいのいる子よりもいない子の方が、テレビをよくみている。

㊨性別による差をみると、男の子の平均値が2.18、女の子の平均値が2.24である。15年前の調査同様、女の子の方が男の子よりも、テレビをみている時間が長い。

㊩母親の就業形態別についてみると、図2-3のようになる。平均値は、勤め人が2.44、パートが2.31、自営業者が1.91、専業主婦が2.17である。勤め人、パートの子がテレビをみている時間が長く、自営業者、専業主婦の子がテレビをみている時間が長いのは、15年前の調査結果と同じである。

㊪「子どもを虐待しているのではないかと思うことがあるかどうか」との関連をみると、図2-4のよう



になる。子どもを虐待しているのではないかと思うことが「ある」の平均値が2.39、「時々ある」の平均値が2.34、「ない」の平均値が2.09である。子どもを虐待しているのではないかと思うことがある家庭の子どもほど、テレビをみている時間が長い。

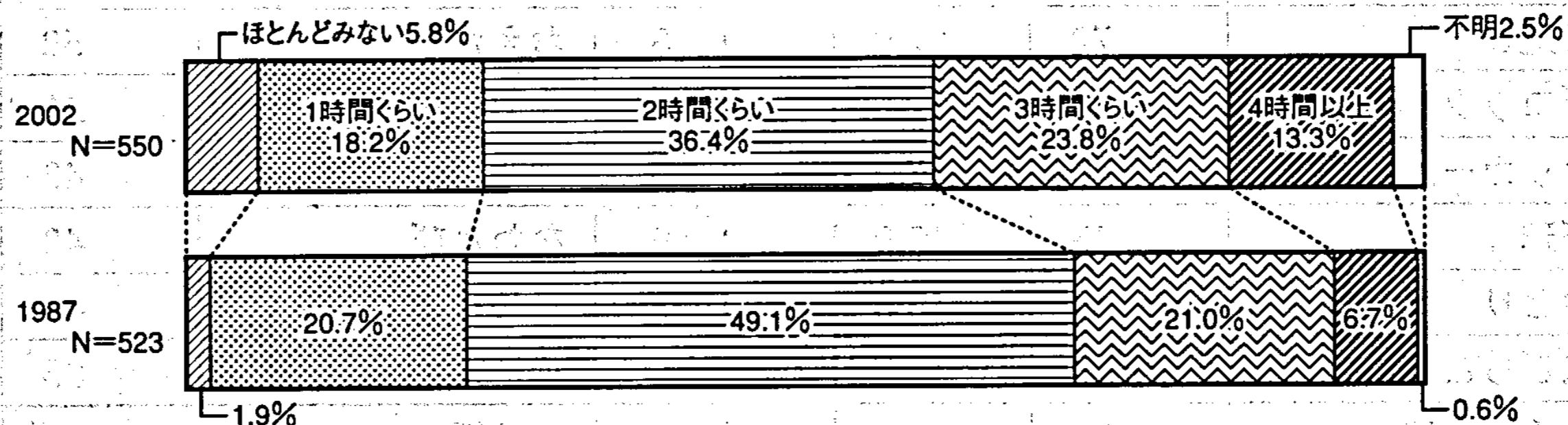


図2-1 テレビの視聴時間

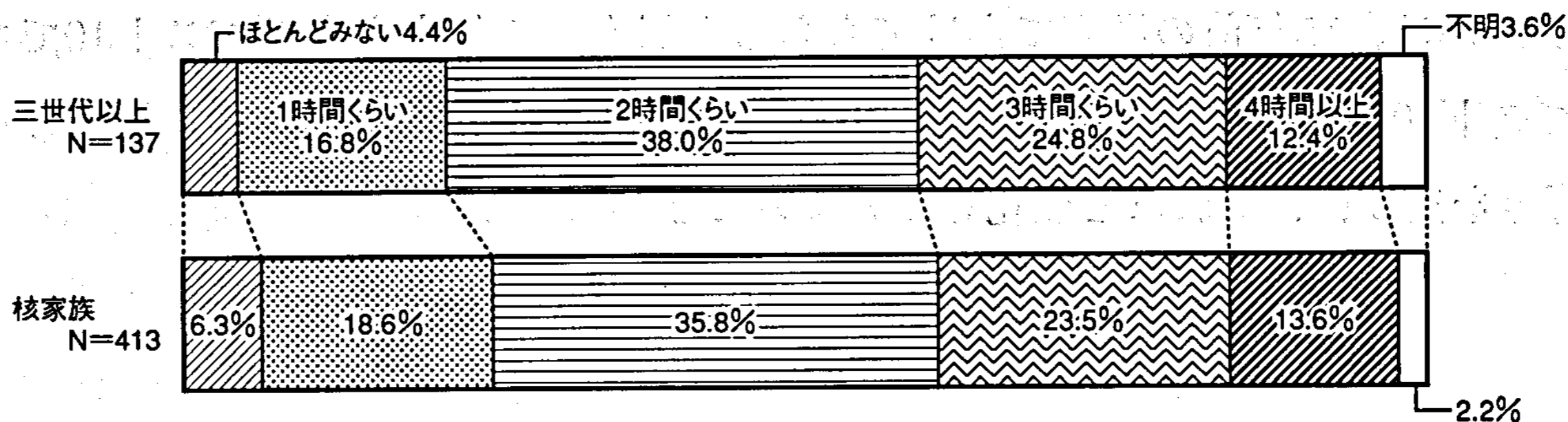


図2-2 家族形態別視聴時間 (2002)

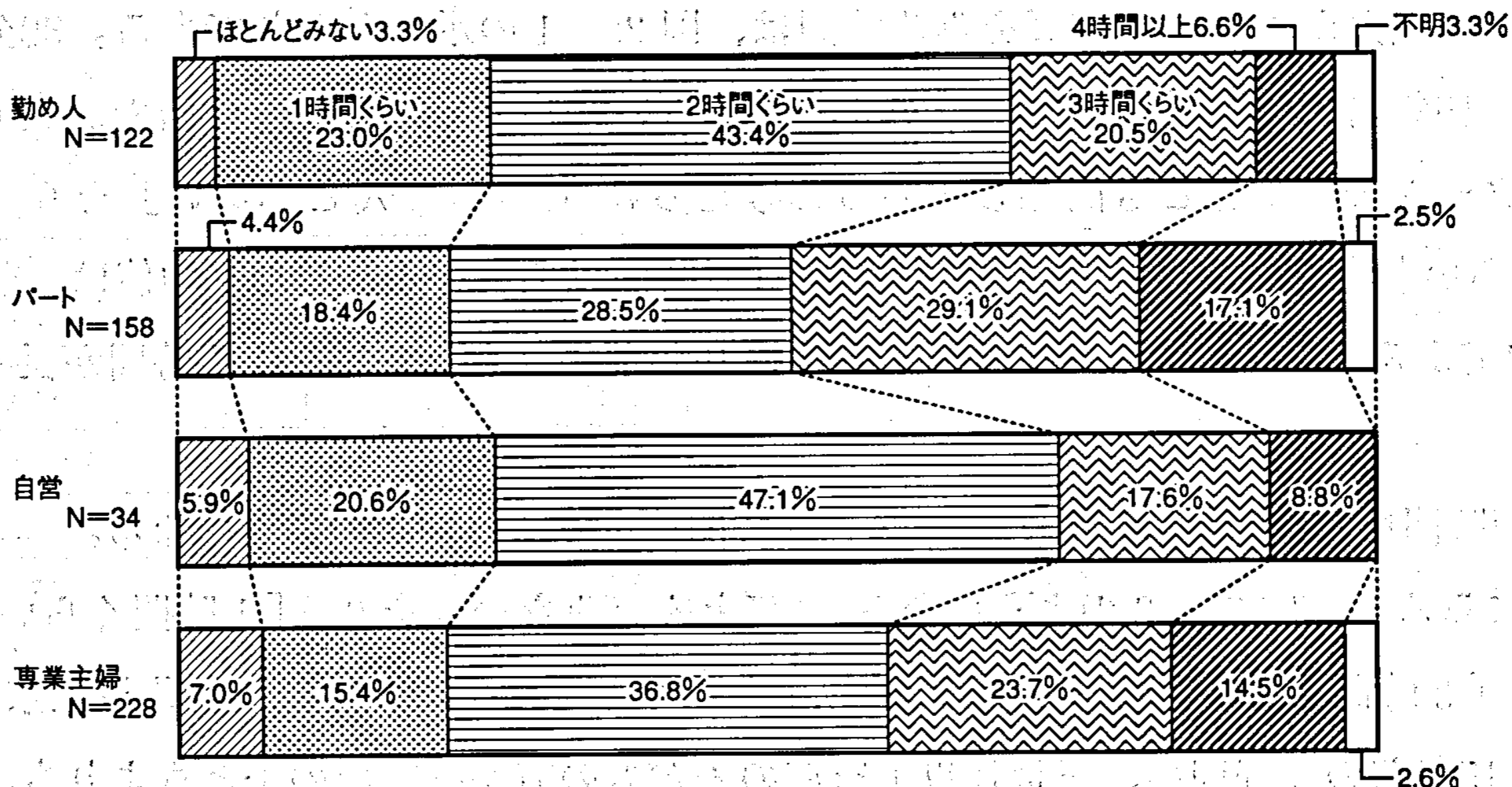


図2-3 母親の就業形態別視聴時間 (2002)

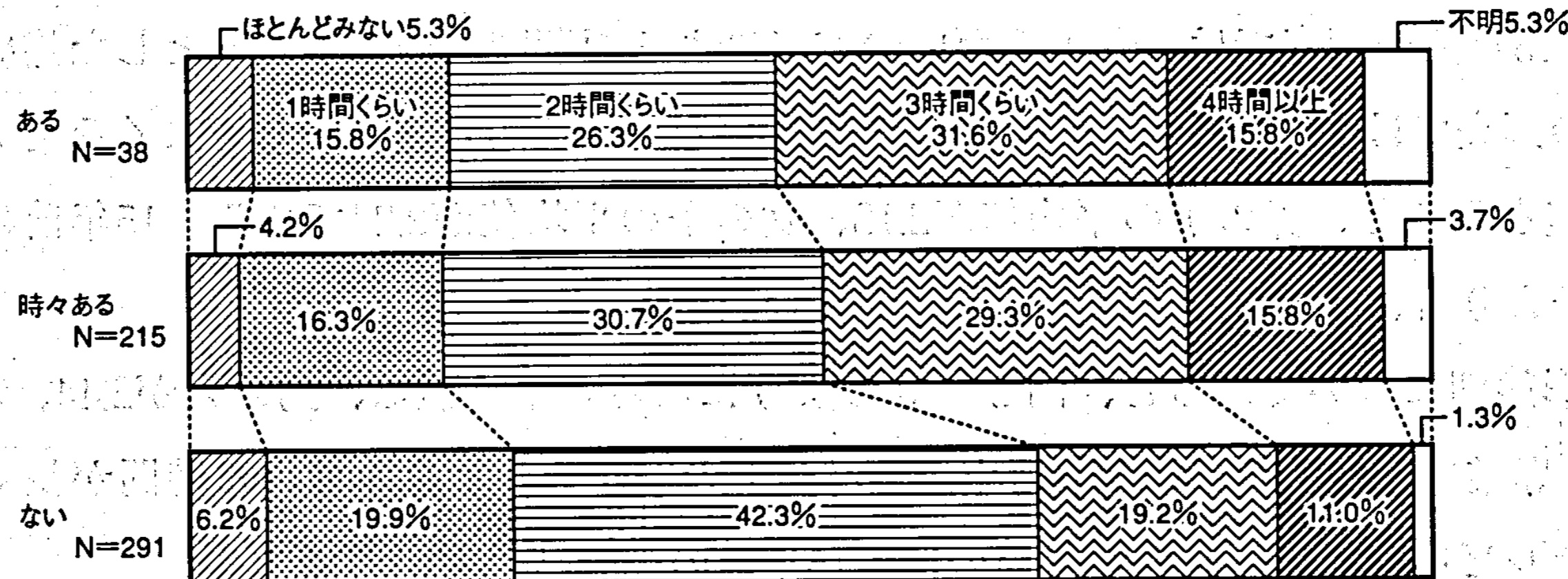


図2-4 虐待意識別視聴時間 (2002)

## (2) 好きな番組

①子どもの好きなテレビ番組（5つ以内）を自由にあげてもらったが、そのうち10位までを示したのが表2-1である。「ドラえもん」が第1位で、34.9%が好きな番組としてあげていた。これに「あたしんち」「忍風戦隊ハリケンジャー」「クレヨンしんちゃん」が続いている。ベスト10に入っている番組の多くがアニメである。

②男女別に好きな番組を10位までみると、表2-2、表2-3のようになる。ドラえもんは男子が1位、女子でも2位で、男女に関係なく人気のある番組である。ドラえもんの他に、男女別のベスト10に共通して入っているのはクレヨンしんちゃんとあたしんちである。その他の番組では、性による違いがみられた。全体的にみると、男の子は戦闘ものを多くあげていたが、女の子は好きな番組として家庭ものをあげている人が多かった。

③表2-4は、15年前の調査であげてもらった子どもの好きな番組ベスト10である。ドラえもんは、15年前の調査では5・6歳児の実に52.2%が好きな番組としてあげていた。15年前の調査のベスト10と今回の調査のベスト10でドラえもんのほかに共通してあげられた番組がなく、ドラえもんの時代をこえた人気の高さが知れる。

表2-5、表2-6は、15年前の調査であげてもらった男女別の好きな番組ベスト10である。ドラえもんのほかに共通してあげられているのは、「ひらけポンキッキ」「加トちゃんケンちゃん」「忍者ハットリ君」である。そのほかでベスト10に入っている番組をみると、男の子は戦闘もの、女の子は文芸ものや家庭ものが多く、今回の調査結果と共通点が認められる。

表2-1 好きな番組（2002—全体）

| 順位 | 名 前       | 人数  | 割合   |
|----|-----------|-----|------|
| 1  | ドラえもん     | 192 | 34.9 |
| 2  | あたしんち     | 118 | 21.5 |
| 3  | ハリケンジャー   | 114 | 20.7 |
| 4  | クレヨンしんちゃん | 110 | 20.0 |
| 5  | おジャ魔女どれみ  | 103 | 18.7 |
| 6  | 仮面ライダー龍騎  | 101 | 18.4 |
| 7  | 伊東家の食卓    | 70  | 12.7 |
| 7  | 天才てれびくん   | 70  | 12.7 |
| 9  | とっとこハム太郎  | 69  | 12.5 |
| 10 | ベイブレード    | 59  | 10.7 |

表2-2 好きな番組（2002—男）

| 順位 | 名 前       | 人数 | 割合   |
|----|-----------|----|------|
| 1  | ドラえもん     | 99 | 35.9 |
| 2  | ハリケンジャー   | 95 | 34.4 |
| 2  | 仮面ライダー龍騎  | 95 | 34.4 |
| 4  | クレヨンしんちゃん | 61 | 22.1 |
| 5  | ベイブレード    | 58 | 21.0 |
| 6  | あたしんち     | 49 | 17.8 |
| 7  | デジモン      | 42 | 15.2 |
| 8  | 星のカービィ    | 38 | 13.8 |
| 9  | ワンピース     | 34 | 12.3 |
| 9  | ポケットモンスター | 34 | 12.3 |

表2-3 好きな番組（2002—女）

| 順位 | 名 前        | 人数 | 割合   |
|----|------------|----|------|
| 1  | おジャ魔女どれみ   | 99 | 36.3 |
| 2  | ドラえもん      | 93 | 34.1 |
| 3  | あたしんち      | 69 | 25.3 |
| 4  | とっとこハム太郎   | 56 | 20.5 |
| 5  | クレヨンしんちゃん  | 49 | 17.9 |
| 6  | ひとりでできるもん  | 46 | 16.8 |
| 7  | 天才てれびくん    | 45 | 16.5 |
| 8  | 伊東家の食卓     | 41 | 15.0 |
| 9  | おかあさんといっしょ | 38 | 13.9 |
| 10 | 名探偵コナン     | 33 | 12.1 |

表2-4 好きな番組（1987—全体）

| 順位 | 名 前        | 人数  | 割合   |
|----|------------|-----|------|
| 1  | ドラえもん      | 279 | 52.2 |
| 2  | ひらけポンキッキ   | 149 | 27.7 |
| 3  | マスクマン      | 98  | 18.7 |
| 4  | 加トちゃんケンちゃん | 90  | 17.2 |
| 5  | 忍者ハットリ君    | 82  | 15.7 |
| 6  | 聖闘士星矢      | 81  | 15.5 |
| 6  | ドラゴンボール    | 81  | 15.5 |
| 8  | メイプルタウン    | 63  | 12.0 |
| 9  | メタルダー      | 62  | 11.9 |
| 10 | サザエさん      | 58  | 11.1 |



表2-5 好きな番組 (1987-男)

| 順位 | 名前         | 人数  | 割合   |
|----|------------|-----|------|
| 1  | ドラえもん      | 151 | 56.6 |
| 2  | マスクマン      | 80  | 30.0 |
| 3  | 聖闘士星矢      | 76  | 28.5 |
| 4  | ひらけポンキッキ   | 62  | 23.2 |
| 5  | メタルダー      | 58  | 21.7 |
| 6  | ドラゴンボール    | 57  | 21.3 |
| 7  | 加トちゃんケンちゃん | 49  | 18.4 |
| 8  | 忍者ハットリ君    | 44  | 16.5 |
| 9  | ハットマスターズ   | 38  | 14.2 |
| 10 | 風雲たけし城     | 31  | 11.6 |

表2-6 好きな番組 (1987-女)

| 順位 | 名前         | 人数  | 割合   |
|----|------------|-----|------|
| 1  | ドラえもん      | 128 | 50.4 |
| 2  | ひらけポンキッキ   | 83  | 32.7 |
| 3  | メイプルタウン    | 57  | 22.4 |
| 4  | エスパー魔美     | 48  | 18.9 |
| 5  | 愛の若草物語     | 45  | 17.7 |
| 6  | 加トちゃんケンちゃん | 41  | 16.1 |
| 7  | 小公女セーラ     | 38  | 15.0 |
| 7  | 忍者ハットリ君    | 38  | 15.0 |
| 9  | サザエさん      | 37  | 14.6 |
| 10 | おかあさんといっしょ | 31  | 12.2 |

(3) 視聴制限

①テレビを「どのようにして試みていますか」という質問に対する回答は、図2-5のとおりである。「時間を決めて試みている」(7.6%)よりも、「番組を決めて試みている」(45.8%)の方がはるかに多い。時間や番組の制限をもうけずに「自由に試みている」が43.5%もあった。15年前の調査結果と比べてみると、時間や番組の制限をもうけてテレビをみせている家庭が減り、子どもに自由に試みさせている家庭が増えている。

②テレビを制限をもうけて試みさせているかどうかを、他の調査項目とクロスさせて関連をみると、次のようになる。

㊦家族形態別にみると、図2-6のようになる。三世代以上家族の方が核家族よりも、子どもにテレビを自由に試みさせている割合が高い。これは、15年前の調査でも同じであった。

㊧きょうだいの有無では、15年前の調査同様、きょうだいのいる子の方がいない子よりも、制限をもうけずに自由に試みている割合が少し高い。

㊨性別による差をみると、制限をもうけずに自由に試みている割合は、男の子が39.5%であるのに対して、女の子は47.6%であった。15年前の調査結果とは逆に、男の子より女の子の方が自由に試みている割合が高かった。

㊩母親の就業形態別にみると、制限をもうけずに自由にテレビをみせている割合は、勤め人が44.3%、パートが54.4%、自営業者が35.3%、専業主婦が36.8%であった。15年前の調査では、自由にテレビをみせている割合は、勤め人が43.1%、パートが46.8%、自営業者が45.2%、専業主婦が31.4%であった。15年前の調査結果と比べて、パートと専業主婦が自由にテレビをみせている割合が増えている。

㊪テレビの視聴制限と「子どもを虐待しているのではないかと思うことがあるかどうか」とをクロスさせて関連をみたが、今回の調査では、ほとんど相関は認められなかった。

③テレビの視聴制限と視聴時間との関連をみると、図2-7のようになる。制限をもうけずに自由に試みさせている家庭では、テレビを4時間以上試みている子が20.9%もいる。テレビを「ほとんどみない」を0、「1時間くらい」を1、「2時間くらい」を2、「3時間くらい」を3、「4時間以上」を4とした平均値は、「時間を決めて試みている」が1.86、「番組を決めて試みている」が2.00であるのに対して、「自由に試みている」は2.51である。テレビの視聴制限と子どものテレビをみる時間は密接に関連しているのである。



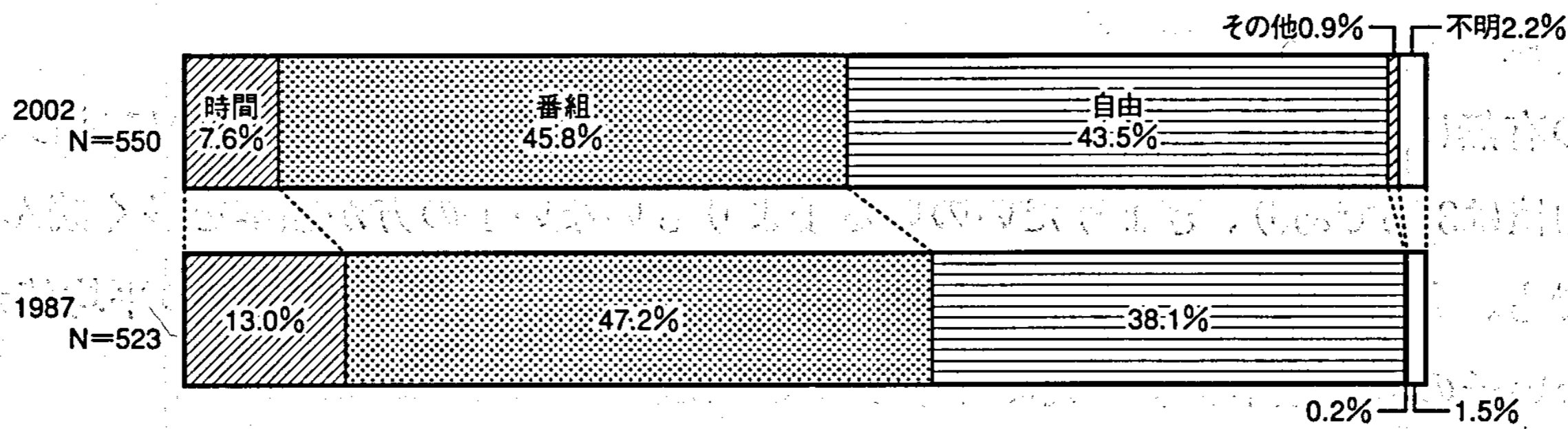


図2-5 テレビの視聴制限

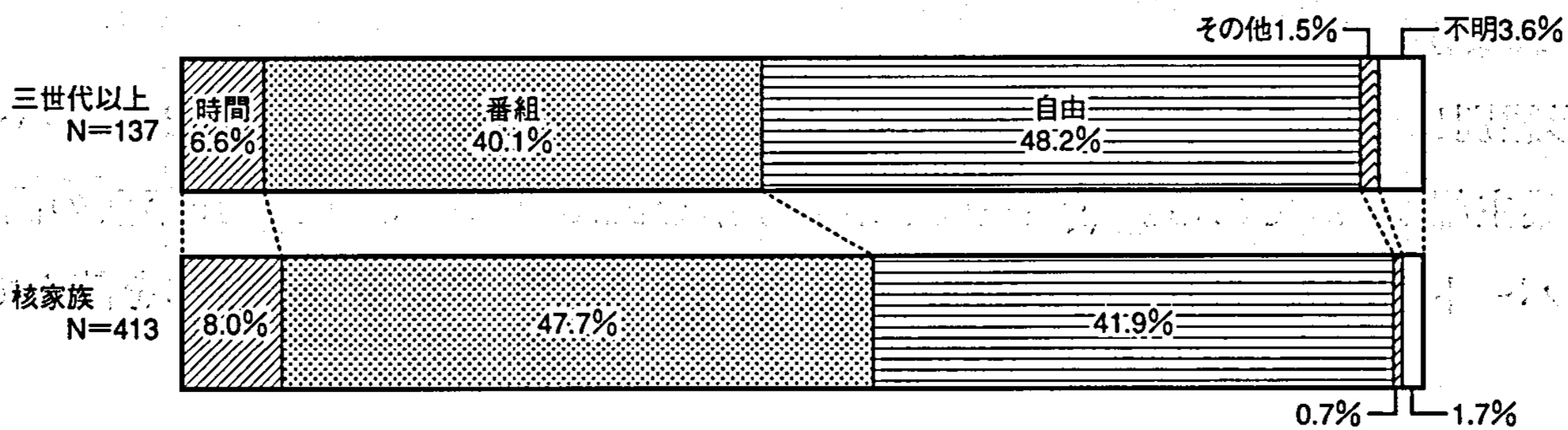


図2-6 家族形態別視聴制限 (2002)

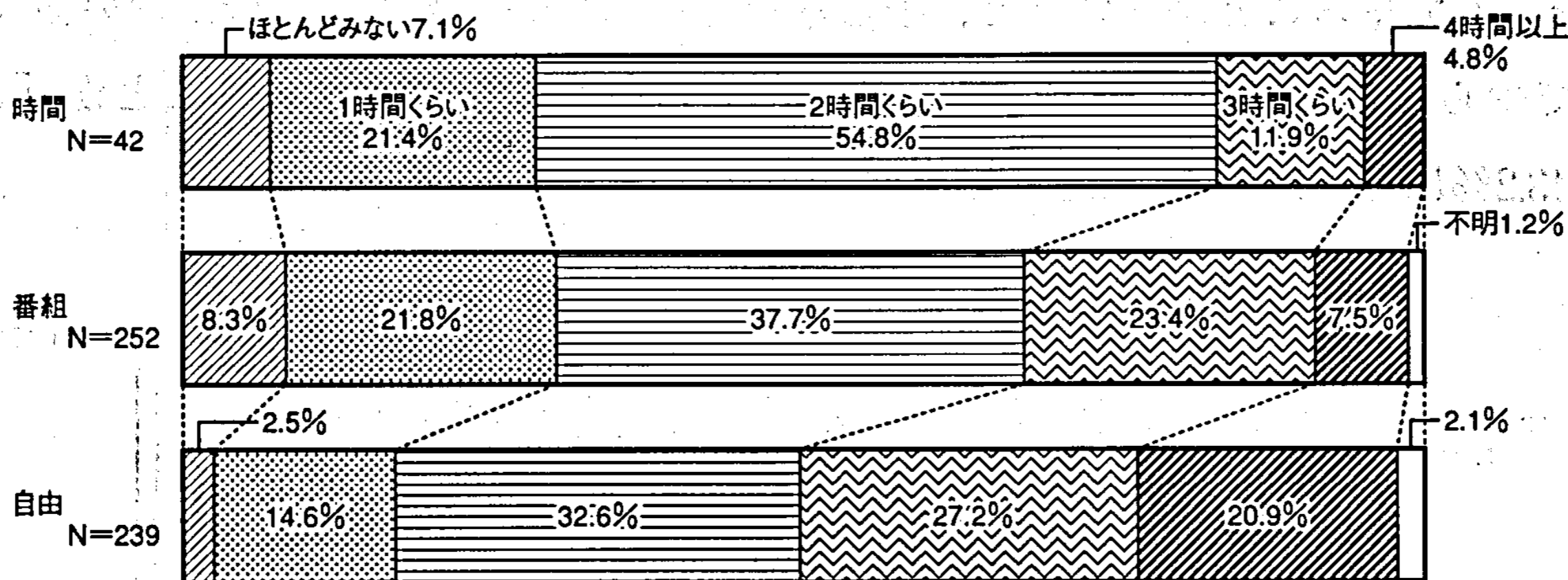


図2-7 視聴制限×視聴時間 (2002)

## 2 絵本・おはなし

### (1) 絵本の読みきかせ

①「絵本を読んでやりますか」という質問に対する回答は、図3-1のとおりである。これを15年前の調査結果と比較すると、「毎日読んでやる」は変わらないが、「ときどき読んでやる」が減少し、「あまり読んでやらない」「ほとんど読んでやらない」が増加している。「毎日読んでやる」を4、「ときどき読んでやる」を3、「あまり読んでやらない」を2、「ほとんど読んでやらない」を1とした平均値も15年前の2.95から2.88になっている。15年前の調査に比べて、子どもに絵本を読んでやる割合が少なくなっている。

②「毎日読んでやる」と「ときどき読んでやる」と答えた人に対して、「主に誰が読んでやりますか」と尋ねた結果が、表3-1である。母親が94.6%と圧倒的に多いが、父親も3割近くいる。15年前の調査と比較すると、母親、父親はほとんど変わらないが、祖父母が増えて、きょうだいが減っている。

③絵本を読んでやるかどうかを、他の調査項目とクロスさせて関連をみると、次のようになる。

④家族形態別についてみると、図3-2のようになる。「毎日読んでやる」を4、「ときどき読んでやる」を3、「あまり読んでやらない」を2、「ほとんど読んでやらない」を1とした平均値は、三世代以上家族が2.82、核家族が2.87となり、核家族の方が三世代以上家族より絵本を読んでやる割合が少し高い。15年前の調査での平均値も、三世代以上家族が2.89、核家族が2.94で、核家族の方が絵本を読んでやる割合が少し

高かった。

④きょうだいの有無についてみると、きょうだいのいる子の平均値が2.82であるのに対して、きょうだいのいない子の平均値は3.06であり、きょうだいのいる子よりもいない子の方が絵本を多く読んでもらっている。15年前の調査でも、きょうだいのいる子の平均値が2.88、きょうだいのいない子の平均値が3.20であり、きょうだいのいない子の方が絵本を多く読んでもらっていた。

⑤性別による差をみると、男の子の平均値が2.87、女の子の平均値が2.85であり、15年前の調査同様、違いはほとんどみられなかった。

⑥母親の就業形態別についてみると、図3-3のようになる。勤め人の平均値が2.81、パートが2.79、自営業者が2.88、専業主婦が2.94である。専業主婦が最も絵本を読んでやっている。15年前の調査での平均値も、勤め人が2.96、パートが2.82、自営業者が2.84、専業主婦が3.02で、専業主婦が絵本を読んでやる割合が最も高かった。

⑦「子どもを虐待している」のではないかと思うことがあるかどうかとの関連をみると、図3-4のようになる。絵本を読んでやることが多いほど、子どもを虐待していると思う割合が低い傾向にある。絵本をほとんど読んでやらない家庭は、子どもを虐待しているのではないかと思うことが「ある」が11.4%、「時々ある」が43.2%にもものぼっている。

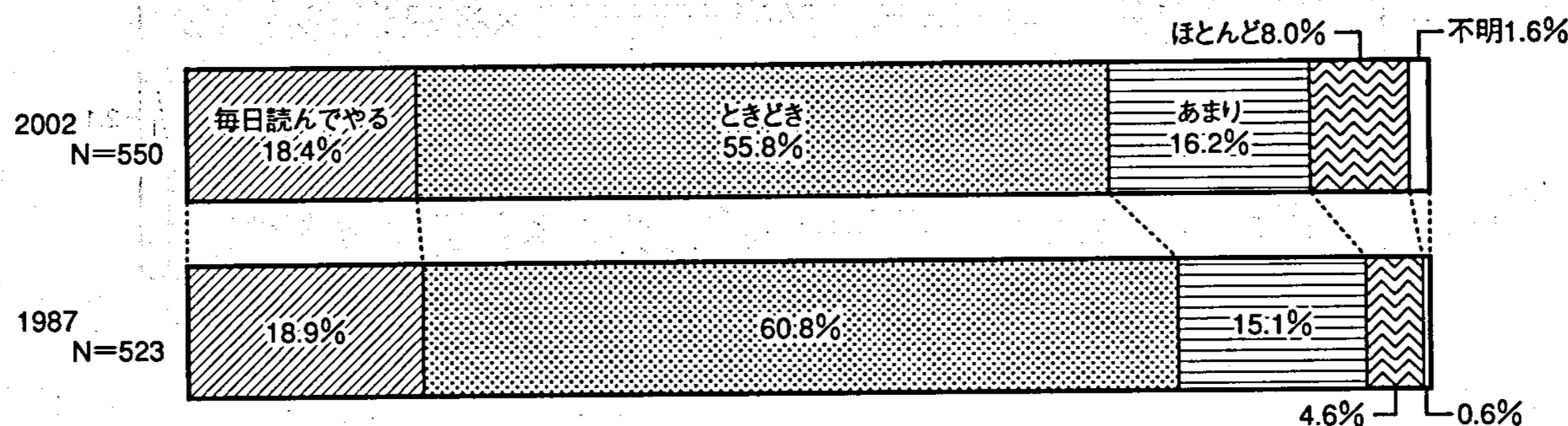


図3-1 絵本を読んでやるか

表3-1 誰が絵本を読んでやるか

|       | 2002  | 1987  |
|-------|-------|-------|
| 祖々父母  | 0.2%  | 0%    |
| 祖父母   | 10.0% | 7.2%  |
| 父     | 28.9% | 30.0% |
| 母     | 94.6% | 94.7% |
| きょうだい | 11.3% | 15.4% |
| その他   | 1.7%  | 2.2%  |

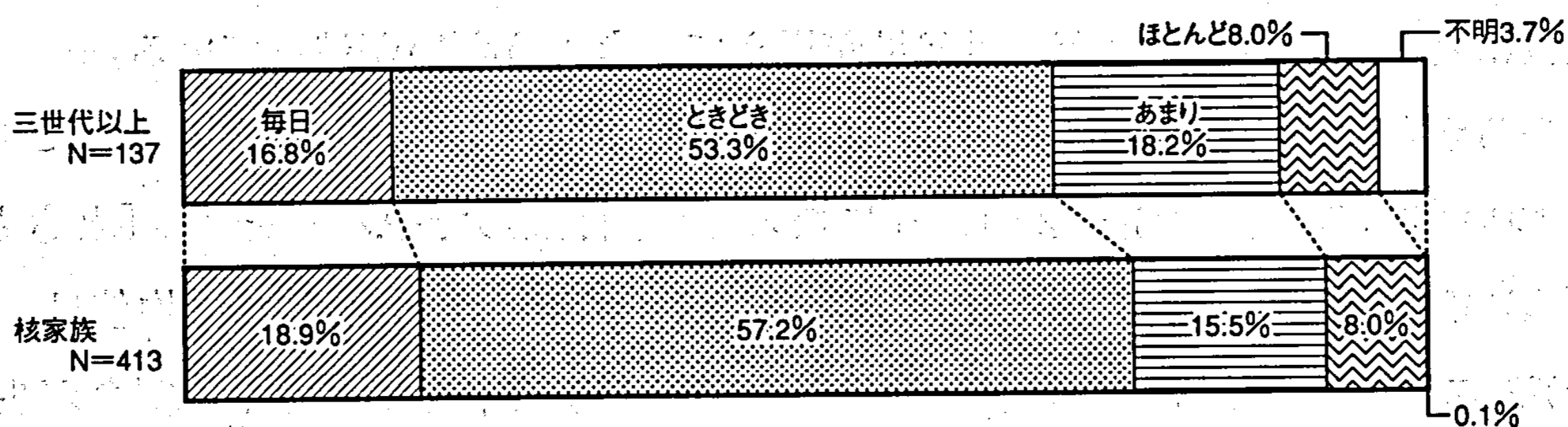


図3-2 家族形態別絵本の読み聞かせ (2002)



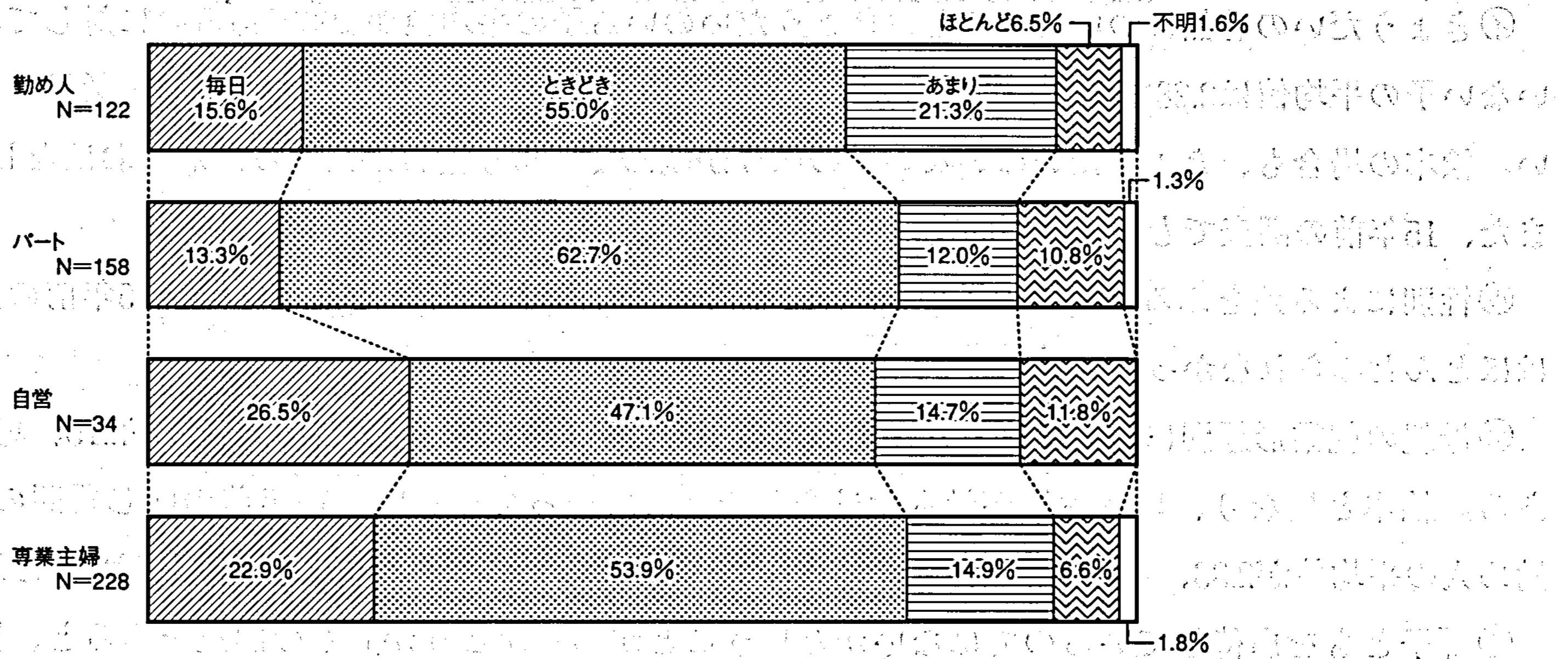


図3-3 母親の就業形態別絵本の読み聞かせ (2002)

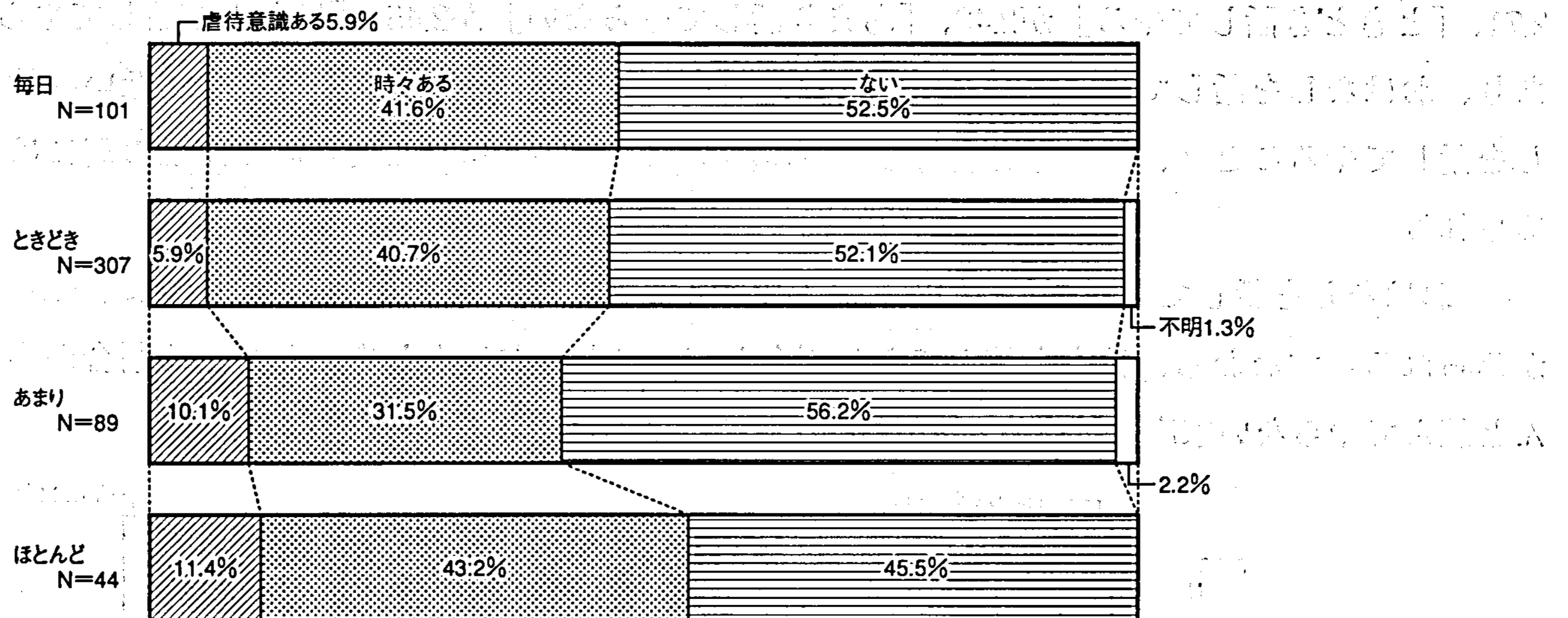


図3-4 絵本の読み聞かせ別虐待意識

(2) おはなし

①「昔話や物語など「おはなし」を話してやりますか」という質問に対する回答は、図3-5のとおりである。これを15年前の調査結果と比較すると、15年前の調査に比べて、「ほとんど話してやらない」が増加している。「毎日話してやる」を4、「ときどき話してやる」を3、「あまり話してやらない」を2、「ほとんど話してやらない」を1とした平均値も、15年前の2.20から2.12になっている。絵本同様、子どもにおはなしを話してやることも15年前の調査に比べて少なくなっている。

②「毎日話してやる」「ときどき話してやる」と答えた人に対して、「主に誰が話してやりますか」と尋ねた結果が、表3-2である。母親が84.4%と圧倒的に多く、次が父親の25.5%である。15年前の調査に比べてみると、母親、父親、祖父母、きょうだいの順序は変わらず、また全体に対するそれぞれの割合もあまり変わらない。

③おはなしを話してやるかどうかを、他の調査項目とクロスさせて関連をみると、次のようになる。

④家族形態別にみると、図3-6のようになる。「毎日話してやる」を4、「ときどき話してやる」を3、「あまり話してやらない」を2、「ほとんど話してやらない」を1とした平均値は、三世代以上家族が2.17、核家族が2.10となり、三世代以上家族の方が核家族よりもおはなしを話してやる割合が少し高い。15年前の調査でも今回の調査同様、三世代以上家族の方が核家族よりもおはなしを話してやる割合が高かった。



④きょうだいの有無についてみると、きょうだいのいる子の平均値が2.08であるのに対して、きょうだいのいない子の平均値は2.28であり、きょうだいのいる子よりもいない子の方がおはなしを話してもらう割合が高い。絵本の場合も、きょうだいのいない子のほうが読んでもらう割合が高かったが、おはなしも同じである。また、15年前の調査でも同様な傾向がみられた。

⑤性別による差をみると、男の子の平均値が2.11、女の子の平均値が2.12であり、15年前の調査同様、違いはほとんどみられなかった。

⑥母親の就業形態別についてみると、勤め人の平均値が2.10、パートが2.15、自営が2.15、専業主婦が2.09である。絵本と異なり、専業主婦が最もおはなしを話してやっていない。15年前の同じ質問の調査結果でも、勤め人の平均値が2.33、パートが2.56、自営業者が2.23であったのに対して、専業主婦は2.14と最も低かった。

⑦「子どもを虐待しているのではないかと思うことがあるかどうか」との関連をみると、図3-7のようになる。「ない」を3、「時々ある」を2、「ある」を1とした平均値は、おはなしを「毎日話してやる」が2.71、「ときどき話してやる」が2.48、「あまり話してやらない」が2.45、「ほとんど話してやらない」が2.32であり、おはなしを話してやることが多いほど、子どもを虐待していると思う割合が低い。絵本同様、おはなしを話してやることと、子どもを虐待しているのではないかと思うことがあるかとの間には、高い相関が認められる。

⑧ おはなしを話してやることと絵本を読んでやることとは、図3-8の示すように、はっきりとした関連がみられる。すなわち、絵本を読んでやる割合が高いほど、おはなしを話してやる割合が高い。絵本をほとんど読んでやらない家庭では、81.8%がおはなしをほとんど話してやらない。

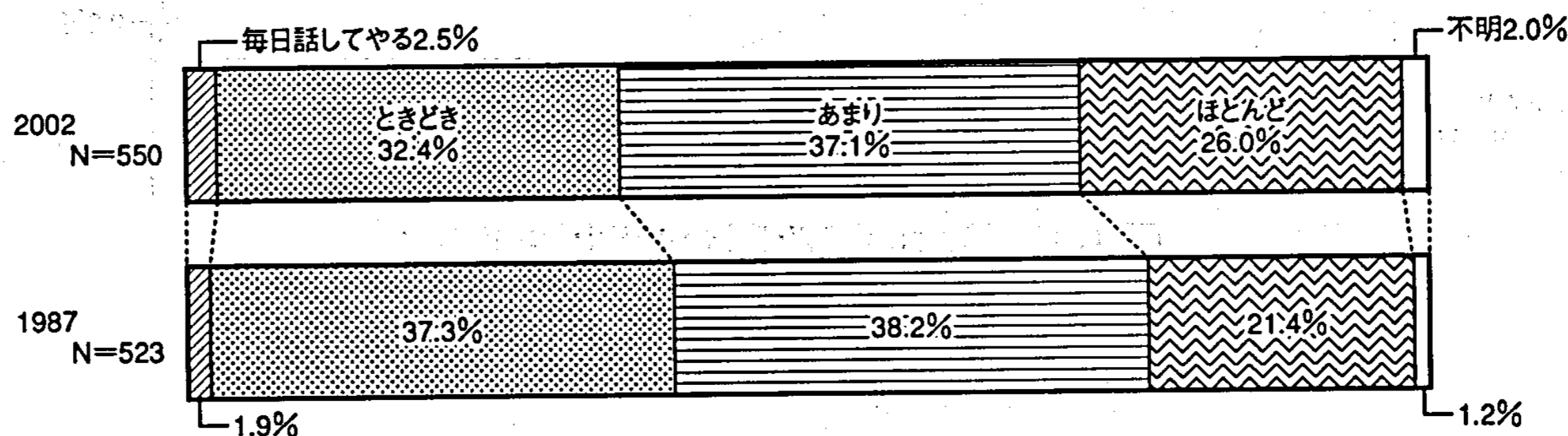


図3-5 おはなしを話してやるか

表3-2 誰がおはなしを話してやるか

|       | 2002  | 1987  |
|-------|-------|-------|
| 祖々父母  | 0%    | 0%    |
| 祖父母   | 17.2% | 19.0% |
| 父     | 25.5% | 26.8% |
| 母     | 84.4% | 85.4% |
| きょうだい | 5.2%  | 6.3%  |
| その他   | 0.5%  | 2.0%  |

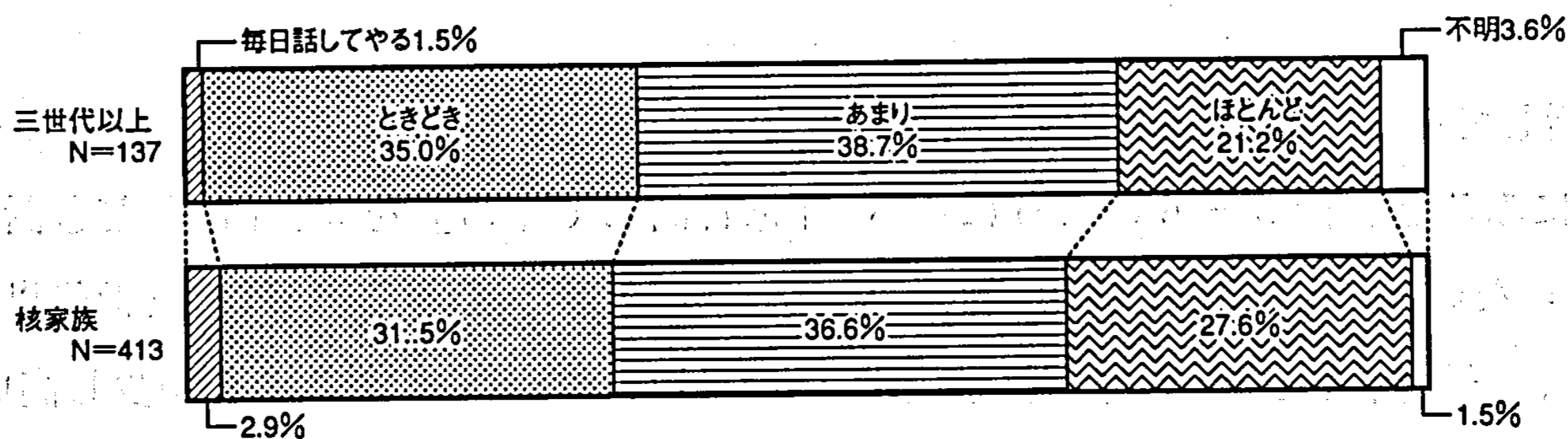


図3-6 家族形態別おはなし

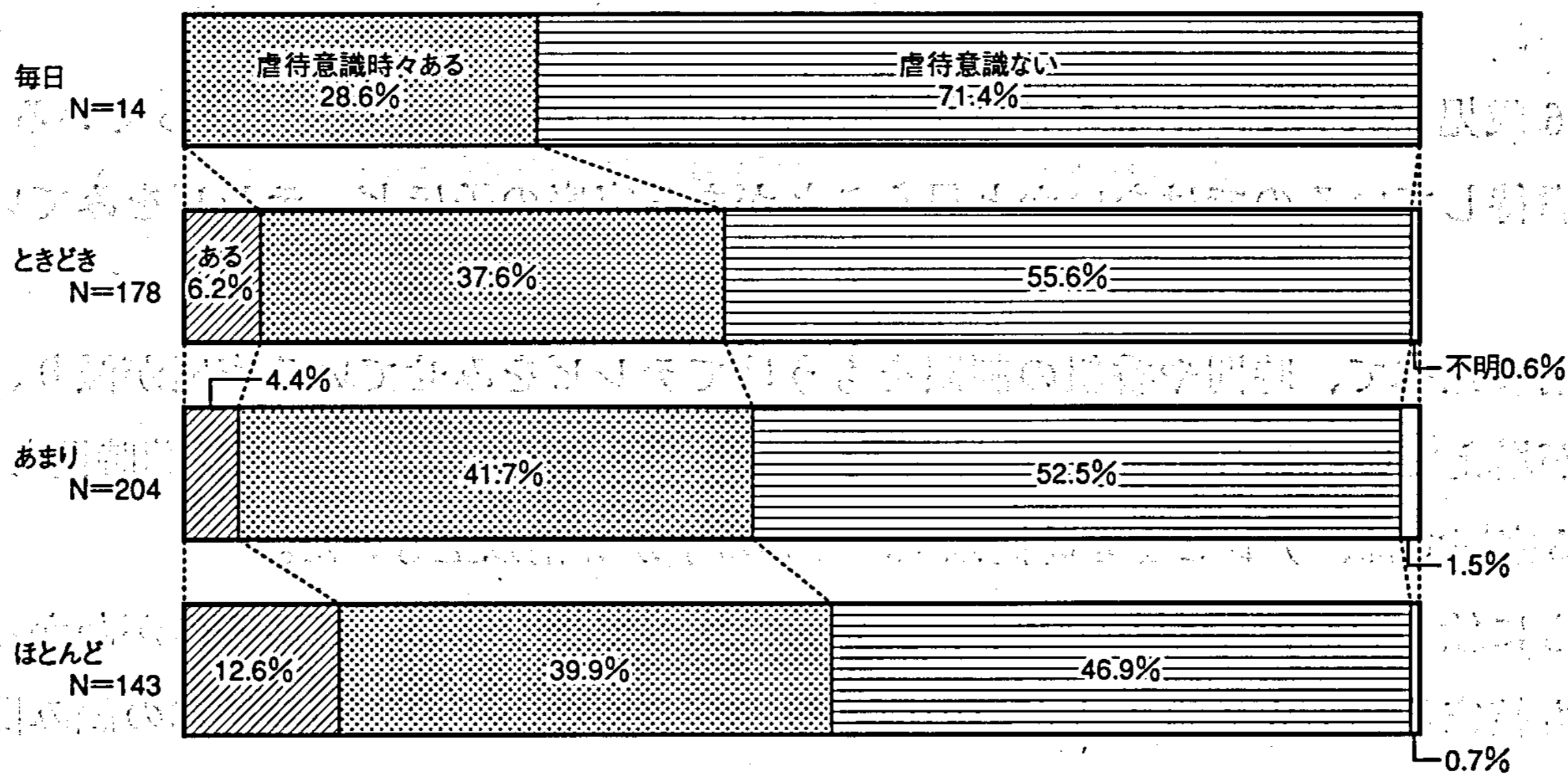


図3-7 おはなしを話してやる別虐待意識 (2002)

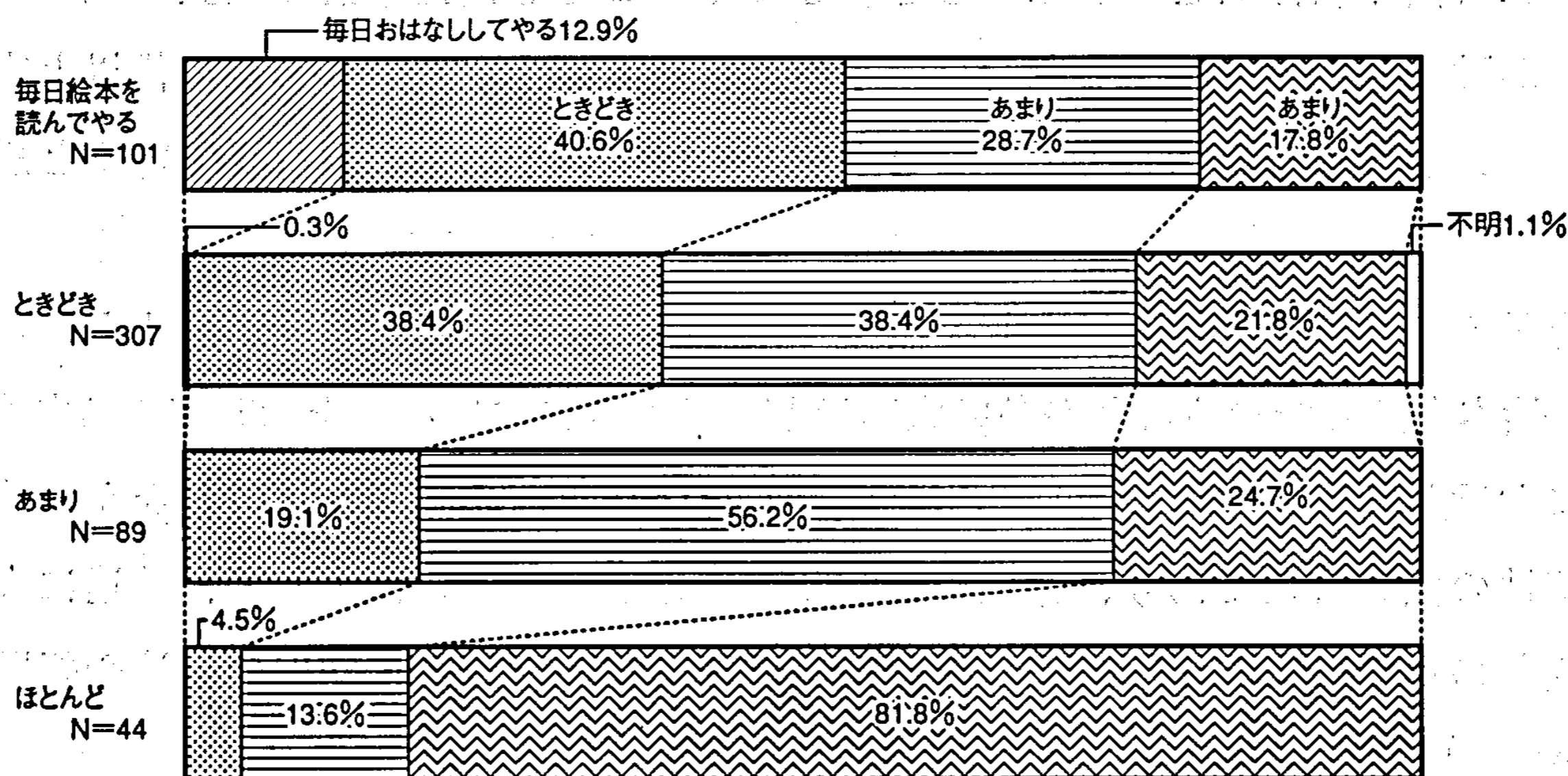


図3-8 絵本の読み聞かせ×おはなし (2002)

#### IV 結び

これまで保護者のとらえた5・6歳児の遊び・文化の実態を、15年前の調査結果と比較しながらみてきた。そのなかで明らかになった主な点を整理し、結びとしたい。

第1に、近くに子どもが安心して遊べる場所が15年前と比べて少なくなっていることがわかった。また、新潟市の場合、5・6歳児の遊び場としては公園の占める割合がきわめて高く、野原、砂浜などの自然な遊び場は非常に少ないことが明らかになった。

第2に、夕食までの過ごし方では、15年前と比べて、外でよく遊ぶ子が激減し、家の中でよく遊ぶ子やテレビをみていることが多い子が増加していることがわかった。また、夕食までの遊び相手では、同年齢及び異年齢の友達が大きく減少し、かわりに一人で遊ぶ子が増えている。新潟市の5・6歳児の場合、夕食までの過ごし方が15年前とすっかり変わってしまったのである。

第3に、5・6歳児に特に人気のある遊びはままごと、おえかき、自転車で、これは15年前とあまり変わっていなかった。ただ、5・6歳児になると性による好きな遊びの違いもみられた。ベイブレード、TVゲーム、サッカーが男の子に人気があるのに対して、女の子の好きな遊びはままごと、お絵かき、折り紙などで

ある。

第4に、5・6歳児が家庭でテレビをみる時間は15年前に比べてかなり長くなっていることがわかった。また、子どもを虐待しているのではないかと思うことがある家庭の子ほど、テレビをみている時間が長かった。

第5に、15年前に比べて、時間や番組の制限をもうけてテレビをみせている家庭が減り、子どもに自由にみせている家庭が増えていることが明らかになった。また、テレビの視聴制限と視聴時間とは密接に関連し、自由にみせている家庭では、テレビを4時間以上みている子が2割以上もいた。

第6に、子どもに絵本を読んでやることが、15年前に比べて少なくなっているのがわかった。また、三世代以上家族よりも核家族の方が、きょうだいのいる子よりもいない子の方が、絵本の読み聞かせの割合が高かった。勤め人、パート、自営、専業主婦という母親の就業別では、15年前の調査同様、専業主婦が絵本を読んでやる割合が最も高かった。

第7に、子どもに昔話や物語などのおはなしを話してやることも、15年前の調査に比べて少なくなっているのがわかった。おはなしを話してやる割合は、絵本とは逆に、核家族よりも三世代以上家族の方が高かった。また、絵本同様、おはなしを話してやることが少ないほど、子どもを虐待していると思う割合が高かった。

第8に、絵本を読んでやることとおはなしを話してやることには、高い相関が認められた。すなわち、15年前の調査同様、絵本を読んでやることが多い家庭ほど、子どもにおはなしを話してやる割合が高かった。

以上、新潟市における5・6歳児の遊び・文化の実態を、15年前の調査と比較しながら簡単にまとめてみた。幼児期は可塑性の強い時期であり、環境やまわりの働きかけの違いによって、発達に大きな相違が生じる。15年前の調査との比較によって明らかになった遊び・文化の特質が、幼児の発達や経験にどのような影響を与えているかについて、稿をあらためて検討したい。

## 注

15年前の1987年の調査結果については、間藤侑・大桃伸一『幼児期の生活実態調査報告書』（新潟市教育委員会発行 1988）を参照